

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105040
法人名	錦江建設株式会社
事業所名	グループホーム ぶどうの木
訪問調査日	平成20年2月28日
評価確定日	平成20年3月21日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 0 1 0 5 0 4 0
法人名	錦江建設 株式会社
事業所名	グループホーム ぶどうの木
所在地	鹿児島市 中山町 5286番地 (電 話) 099-821-1011
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 2月 28日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 8日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	14人 常勤 3人, 非常勤 11人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	250円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	50円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿児島徳洲会病院 西村内科消化器科 中山整形外科 わきもと歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の南部に位置し、周りを住宅や畑に囲まれた静かで落ち着いた雰囲気のホームである。建物は南側に大きく開口部を取り、風通しや日当たりがよく快適に過ごすことができる。共用スペースには畳やソファを適宜配置しており、入居者が思い思いに過ごすことができる。日頃から近所の方が手づくりのお菓子を持ってホームを訪れるなど、周囲の人々との交流も盛んに行われ、地域の中でその人らしく暮らし続けることが実践されている。また、運営理念に基づき、入居者の思いや意向を実現すべく、趣味の読書やスミングのため書店やプールに付き添うなどの支援が行われ、入居者が明るく活き活きと過ごすことのできるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「服薬の支援」「感染症対策」「ホーム内の衛生管理」・・・他、前回評価における改善課題について、管理者が中心になり職員全員でその対策を話し合い、適宜マニュアルを作成するなどの改善に取り組んでいる。作成したマニュアルは一冊にファイルされ、職員は空いた時間を利用して内容を確認し、日々の仕事に活かしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者を中心に、職員の意見を参考にしながら自己評価を行っている。また、前回外部評価における要改善事項についても、全員で検討して改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、日頃の入居者の様子や催し物の開催状況などホームの運営状況が報告されると共に、入居者及びそのご家族、民生委員や町内会長、近隣の住民など様々な立場の方々から意見や要望が出され運営に活かしている。評価への取り組み状況等について、報告や話し合いは今のところなされていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者の暮らしぶりや健康状態、日々の活動の様子など、電話や手紙、「ぶどうの木便り」により定期的及び必要に応じて報告を行っている。また、毎月の請求書と共に「預かり金清算書」により金銭管理の状況を報告している。ご家族がホームを訪れる際や運営推進会議などで、意見や要望、苦情などが寄せられ、それらをホームの運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、総会等に管理者が出席したり、近所の方が手作りのお菓子を持ってホームを訪れるなど、地元の人々との交流を盛んに行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、「地域社会と共に・・・」と、地域の中でその人らしく暮らし続けていくための理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を意識し、毎日のミーティングや日々のケアの中で理念を共有する機会を設け、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、総会等に管理者が出席したり、近所の方が手作りのお菓子を持ってホームを訪れるなど、地元の人々との交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に、職員の意見を参考にしながら自己評価を行っている。また、前回外部評価における要改善事項についても、全員で検討して改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者及びそのご家族の他、民生委員、町内会長、近隣の住民など様々な立場の方が話し合いを行いサービスの向上に活かしている。市の担当者や地域包括支援センター職員は今のところ参加していない。自己評価の内容や外部評価の結果についての報告はなされていない。	○	運営推進会議に市の担当者や地域包括支援センター職員の参加を求めている。また、年1回の評価の効果を高め、様々な取り組みや改善経過をモニターするという会議の役割を果す意味からも、評価結果の報告をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスを提供する上でのアドバイス等、市の担当者の方からいただくなど、ともにサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、日々の活動の様子など、電話や手紙、「ぶどうの木便り」により定期的及び必要に応じて報告を行っている。また、毎月の請求書と共に「預かり金清算書」により金銭管理の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを訪れる際や運営推進会議などで、意見や要望、苦情などが寄せられ、それらをホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご家族の介護や病気療養等、やむを得ない理由による職員の退職はあるが、新しい職員に対し、業務より入居者との関係づくりを優先させるなど、ダメージを必要最小限に抑える取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協議会主催の勉強会に、管理者及び職員が参加している。不参加の職員に対しては伝達研修を実施するなど、職員の質の向上に向け取り組んでいる。毎月ホーム内で勉強会を行っているが、年間計画等は今のところ作成していない。	○	職員を、その力量や経験に応じて段階的に育成するために、年間研修計画等の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催される地区グループホーム協議会主催の勉強会や、近隣のホームとの相互訪問(入居者も含む)等により同業者との交流を図るなど、サービスの質向上に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人が事前にホームを訪問する機会はそれほど多くないが、ご家族にはホームを見学していただき、入居者の現在の状況や思いなどを十分に話し合い、入居の受入を行っている。また、ホームに馴染めないような方の場合、ご家族と一緒に宿泊していただくなどの工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的に介護するだけでなく、これまでの経験や得意なことを尊重し、職員が学ぶ機会も持ちながら互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人やそのご家族から思いや暮らし方の希望等を聞き、本人主体の暮らしを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの病歴、好きなこと、生活歴、ADLの状況等を考慮して、入居者やご家族の希望、日々接している職員の意見等を参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画かどうか、妥当性の確認を行っている。また、担当者会議を行い、介護計画の見直しを定期的(3ヶ月毎)及び必要に応じて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の支援を受けながら、必要な外来受診への付き添いや定期的な健康管理などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては日曜祝日の対応が可能なことから、入居者本人やそのご家族の希望により、協力病院がかかりつけ医となっている。眼科、整形外科、循環器科、歯科等その他については、それぞれ希望の医療機関の受診をご家族と協力しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では重度化や終末期の人を対象としておらず、入居の際にその旨説明し、入居者やご家族と方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては、入居の際に同意をいただき、事務所において記録類等、適正に管理している。また、個人のプライバシーに関することは、他の入居者の耳に入らないように場所を変えて話をするなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、それらの決まりや職員の都合を優先することなく、それぞれのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、配膳や片付けなど、それぞれに応じて手伝いをしてもらいながら食事を楽しんでいる。しかし、職員は弁当を持参し、交代で休憩室で食べることが多い。	○	食事を楽しむ観点から、入居者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを一緒に食べることを検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火・木・土と決められてはいるが、入居者の希望によりそれ以外の曜日の入浴も可能である。状況に応じて、足浴やシャワー浴なども行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好きなことや得意なことを把握し、それぞれの希望に応じて、書店やプール、歴史資料館を訪れたり、喜びや楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望により書店やプール、歴史資料館や近所の散歩など、日々戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室を含め、日中玄関等に鍵をかけることはない。台所や共有スペース、事務室などから出入り口がよく見え、見守りが十分に行われており、入居者は自由に出入りすることができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害や緊急時の対応マニュアルが作成され、職員は日々内容を確認している。消防訓練や心肺蘇生訓練を実施し、地域の人々の協力についても運営推進会議や日頃の交流を通じて働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士である管理者が食事の内容を常に把握しており、栄養摂取について適切な支援を行っている。食事や水分の摂取についても、各職員が大切さを認識して適切に支援している。但し、日々の記録として食事の摂取量は記録しているが、水分の摂取量は記録していない。	○	水分摂取についてチェック表を活用するなど、職員が情報を共有することで一日を通じ水分量の確保ができるような支援体制を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、開口部を多く取り採光や風通しに配慮している。室内からは庭に植えている草花をはじめ近所の畑や住宅などが見え、生活感や季節感を感じることができる居心地の良い造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇をはじめ使い慣れた品物が持ち込まれ、入居者本人が居心地よく過ごせるように配慮している。		